



慶應義塾大学ビジネス・スクール

オグラ金属株式会社 (B)

5

— テーマパーク活動の現状 —

以下は、5S活動を底辺で支えているテーマパーク活動の現状について、各職場の5S推進メンバーにインタビューした結果である。

10

バック・トゥー・ザ・フューチャー

2008年に営業部として5S活動を始める前にも、ここは当社が製造する部品の展示ルームだったんですけども、部品が漠然と並んでいる状態で足の踏み場もなく、ただ置いているだけという状態でした。そこで、営業部として5S活動を開始するにあたって、まずどういうコンセプトで展示ルームをリニューアルするかを考えました。ただ漠然と置いてもつまらない、お客様の印象に残らないのではないかとということで、オグラ金属の生い立ちから現在に至るまでを、お客様にルートに沿って順次見て頂くということで、この展示ルームをバック・トゥー・ザ・フューチャーと名付けました(写真1)。こんな形になるまでには、2008年から始めて、何だかんだで1年ぐらいはかかりました。現在でも、まだ完成形ではないんです。

15

20

展示ルームを整備することで、お客様を案内するときに、オグラ金属がこういう部品から始まって、こういう技術があつて、これを利用して現在はこういう部品を作っているという具合に段階を経て説明できるので、お客様からも分かりやすいと好評です。展示ルームでは、現在製造している部品を、自動車関連部品・弱電/環境関連部品・アミューズメント関連部品・鉄道車両関連

25

本ケースは、標記企業の全面的な協力を得て、慶應義塾大学大学院経営管理研究科の坂爪 裕教授が作成した。本ケースはクラス討議の資料として用いるためのもので、経営管理の良否あるいは関係者の判断の適否を示唆するものではない。インタビューに快く応じて頂いた、オグラ金属株式会社代表取締役社長の小倉勝興氏、取締役副社長の小倉乃里子氏、取締役常務の平塚博美氏、製造部生産技術グループ・グループリーダーの湯沢秀樹氏をはじめ、各職場でテーマパーク活動を推進している稲村伸一氏・赤坂玲子氏・桜井洋子氏・東齊史氏・五箇邦明氏・池澤辰巳氏・石井由紀子氏・山口和夫氏(ケース登場順)に心から感謝したい。

本ケースは慶應義塾大学ビジネス・スクールが出版するものであり、複製等についての問い合わせ先は慶應義塾大学ビジネス・スクール(〒223-8526 神奈川県横浜市港北区日吉4丁目1番1号、電話045-564-2444、e-mail:case@kbs.keio.ac.jp)。また、注文は<http://www.kbs.keio.ac.jp/>へ。慶應義塾大学ビジネス・スクールの許可を得ずに、いかなる部分の複製、検索システムへの取り込み、スプレッドシートでの利用、またいかなる方法(電子的、機械的、写真複写、録音・録画、その他種類を問わない)による伝送も、これを禁ずる。

30

Copyright© 坂爪 裕 (2013年4月作成)